

まだ、友達じゃない

【登場人物表】

半沢可穂 (17) 高校3年生

清島あやね (17) 可穂のクラスメイ

ト

音羽琢磨 (17) 可穂のクラスメイ

担任教師

美化委員 A

○ 松風高校・正門

門に「松風高校」のプレート。

○ 同・校庭

色とりどりの花が咲き乱れている。花に水をまいている音羽琢磨（17）。

○ 同・美化委員室

「美化委員室」と書かれた部屋。半沢可穂（17）が、教室の扉のレールに青い輪ゴムを数個並べている。引き扉を開け閉めすると、ゴミが取れ、レールが綺麗になる。

可穂「やってみて」

腕に青い輪ゴムを数本つけて見つめていた女子生徒2人が同じようにすると、ゴミが取れ、尊敬の眼差しで可穂を見る。

○ 同・3年A組の教室

授業中、机の左上にアイロンの掛けられた青いコットの全く同じハンカチが置かれている可穂と2人の女子生徒。窓際に座る清島あやね（17）が机に上半身を預け、つまらなそうに3人を見比べている。窓から風が吹き、あやねの長い髪がなびくと、うざったそうにし、くしゃみをする。制服のポケットに手を突っ込むと、鼻水をすすりながら、

あやね 「……これでいっか」

赤いシルクのぐちゃぐちゃなハンカチを見つめるあやね。チャイムが鳴り、生徒が起立礼をする。黒板を雑に消す生徒に可穂と他2人が丁寧に消すよう注意している。横目で見ながら、赤いシルクのハンカチで鼻を拭いているあやね。

あやねが学食の隅でひとり、手品の道具とみられるクラッカーやロップ、手用品用の偽物の一万円札を広げている。フォトフレームに入った祖父の写真を丁寧に置く。

○同・売店（夕方）

ガムを噛みながら売店に並ぶ可穂が学食にいるあやねに気づく。

○同・学食（夕方）

あやねが先程の赤いシルクのハンカチを手の中に詰めている。小指から順に手を開くと、赤いハンカチはない。

○同・売店（夕方）

売店に並ぶ可穂が学食にいるあやねを怪訝な顔をして見る。

○同・学食（夕方）

また手を握ると、指の隙間から赤いハ
ンカチを出す。ニヤけるあやね。担任
教師が学食に来る。

担任教師「清島―お前宿題出せ！」

あやね「無理！」

あやね、おえっ、つと吐きそうなジエ
スチャ―をする。

担任「今日が無理なら日曜に来い。補習も兼
ねてやるぞ。俺の愛」

あやね「無理！」

笑いながら口から万国旗を出すあやね。

○同・売店（夕方）

前に並ぶ生徒が去り、最前列になる可
穂。「キシリトール配合」と書かれたボ
トルガムを手にとり、お金を払う。歩
き出しながら、

可穂「虫歯断絶！」

ボトルガムを目の前に掲げ、十字を切
る。

○同・美化委員室（夕方）

可穂がガムを噛みながら、熱心にノートに美化記録をつけている。美化委員の生徒が2人委員室に入ってきて来る。

美化委員 A 「委員長、大変です」

可穂が美化委員 A をキッと睨み、噛んでいたガムをティッシュにくるみ、ゴミ箱に捨て委員室を出る。

○同・学食（夕方）

誰もいない学食にクラッカーや刻まれたお札が散らかっている。可穂と、チエックリストを挟んだボードを持った美化委員の生徒2人がそれらを眺めて、

美化委員 A 「チェックリスト外なんですけど、
たまたま見えて」

可穂 「清島さんね」

美化委員 A 「たぶん……」

可穂 「片づけましょう」

○同・職員室・外

私服のあやねが職員室の扉を開けて出てくる。一礼して、

あやね「失礼しましたー」

担任の声「日曜にご苦労！」

○同・美化委員室・中

私服の可穂がガムを噛みながら、パソコンに向かって、『<オーン∞美化チエックリスト』のエクセルファイルに『学食 Zzz』の行を追加している。一息つくのと、時計を見て、パソコンを閉じる。

○同・運動場

私服のあやねが花壇の前に座る。

あやね「練習く練習く」

鼻歌を歌い、鞆からステッキや一万円札など小道具を次々と出す。

○同・美化委員室・中

可穂が窓に近づき、運動場を眺めると、
あやねを見つける。

可穂「あんの……休みだっつもの」

委員室を飛び出す可穂。

○同・運動場

可穂があやねに近づく。

可穂「それは何？」

あやね「出たよ」

可穂「清島さん、学校に不要なもの持ってこないで」

あやね「これはくマジック同好会の備品」

可穂「マジック同好会なんてうちにはない」

あやね「日曜だし関係くない？」

可穂「学校は学校」

あやね「だいたいあんたらいつも揃って気持ち悪いんだけど。ハンカチも同じ青いやつだし」

あやねが立ち上がり、可穂と面と向かう形になる。

可穂「青いハンカチは美化委員の決まりなの。

代々この松風高校に受け継がれてるの」

あやね「へえ、だから軍団でしか注意できないわけ？」

可穂「散らかす人がいるからでしょ。もう留年すれば？」

あやね「あんたに関係ないでしょ」

可穂「迷惑！片づけるこっちの身にもなれよね！」

あやね「掃除しなきゃいいじゃん！」

可穂「それが仕事なの！なんでわかんないの！？」

顔が徐々に近くなり睨み合う2人。

音羽の声「降りろボケー！」

びくつとすると可穂とあやねに音羽がホースで水をかける。

可穂・あやね「うわっ、ちよっと！なに!?」
音羽が水を浴びせ続ける。

音羽「そこから降りろ！」

可穂とあやねが足元を見ると、2人も花壇の花を踏んでいる。あ、となつて、花壇から降りる2人。

あやね「降りた！降りたからやめて！」

音羽、水をかけるのをやめる。

可穂「うわっ、最悪。てか、日曜なのになん
でいるの？」

音羽「俺は毎日水やり来てんだよ！やっとこ

こまで咲いたのに、なんなんだよお前ら：
」

俯いてぐずり出す音羽。可穂とあやねは顔を見合わせる。

音羽「お前ら2人とも留年しろ！」

音羽が走り去る。びしょ濡れの2人。可穂がポケットをひっくり返すと青い輪ゴムが、あやねがポケットをひっくり返すと一万円札（偽物）が出てくる。

あやね「ハンカチ持ってないの？」

可穂「：：私服だし」

あやね「私服だから持ってないの？めちやく
ちゃかよ」

可穂「口からハンカチだせ」

あやね「仕込んでない」

風が吹き、踏み散らかした花びらが舞
う。

あやね「怒られに行くか」

可穂「音羽、どこ行ったんだろう」

あやね「たぶん学食の裏」

可穂「え」

あやね「あそこに珍しい花が咲いてるって
はしゃいでたから」

可穂「なにそれ、慰められに行ったってこと？

花に？」

あやね「そういうヤツなの」

可穂「うわ」

あやね「まあ、違うかもだけど」

可穂はあやねからお札を奪い、噛んで
いたガムを捨て、あやねは可穂から輪
ゴムを奪い、髪を括る。

あやね・可穂「音羽く？」

2人、走りだす。